



広い視野を持つことで、 選択肢と可能性を広げる。

■ KPMG LLP
□ Advisory Services Practice

井上レオナさん (左)

□ PROFILE (いのうれおな)
1999年5月Northern Illinois University会計学部卒業後、日本の大手電機メーカーの米国子会社に経理部員として入社。2001年5月同内部監査部に移動。05年1月KPMGに入社以来、企業改革法関連プロジェクト、決算業務支援プロジェクト、内部監査のアウトソーシング業務に従事する。

一步一步地道にこなす、 それが成功への近道。

■ KPMG LLP
□ Advisory Services Practice

東海林望美さん (右)

□ PROFILE (しょうじのぞみ)
桜美林大学卒業後、University of Illinois at Urbana-Champaignの修士課程にて会計学を専攻。2000年8月卒業後、某4大会計事務所の監査部門に入社し、日米企業の会計監査に従事。05年9月KPMGに入社以来、企業改革法関連プロジェクト、内部監査のアウトソーシング業務に携わる。

様々な大手企業の監査人として、世界中にネットワークを持ち、グローバルに積極展開する大手会計事務所KPMG。1973年、アメリカの大手会計事務所としては初めて、在米日本企業へのサービスを専門とする「ジャパニーズ・プラクティス」部門を特設。現在、同部門には約250名のバイリンガル・プロフェッショナルが在籍し、全米各地で数多くの日本企業をサポートしている。

監査・税務に次ぐ第3の部門として急成長中のアドバイザリー部門で、内部監査及び規制コンプライアンス・サービスのプロフェッショナルとして活躍する井上さんと東海林さんに話を聞いてみた。

■ いつ頃から「会計」を意識し始めましたか？

東海林：私は留学する以前から会計に興味を抱いていました。当時、アメリカの会計基準が日本より進んでいると聞いて、それならば本場アメリカで会計を学ぼうと決意しました。また、1年間中国へ留学していたこともあり、留学先での様々な人との出会いによって国際人としての意識が芽生えました。それも渡米するきっかけのひとつでした。

井上：もともと父親がアメリカ好きで、英語の大切さも教えられていたので「とにかく英語を学びたい!」という思いでアメリカにきました。最初は会計なんて全く考えていませんでした。それに機械関連の分野が好きだったので、始めは機械工学を専攻していたのですが、ある日選択科目で取った会計のクラスで、その面白さに惹かれてしまいました。それで、もっと会計を学んでみたいと思いました。

■ 初めての就職活動はいかがでしたか？

東海林：学校のキャリアセンターやインターネットを使った仕事探しのほかに、キャンパスリクルーティングにも積極的に参加しました。初めての面接では、手に脂汗をかくほど緊張してしまっ。それで緊張を克服するために、イメージトレーニングをしました。様々な人と情報交換をして、どんな質問をされるか予想し、それに対する答えを用意して、頭の中で何度もリポートしながら本番に備えました。

井上：やはり緊張もしますが、普段日本語を使わない環境にいたため、面接では日本語があやふやになり、敬語がうまく話せず苦労しました。それから、ボストン・キャリアフォーラムに参加し

ましたが、内定を頂いた企業の多くは日本での採用。CPAを取得するまでは帰国しないと決めていたので、内定を辞退せざるを得なかったです。

■ 転職を考えたきっかけを教えてください。

東海林：キャリアの幅を広げたいと思ったのが、転職のきっかけでした。前職地のシカゴと比べ、金融やトレーディングなどニューヨークは業界の種類が違いますし、規模の大きな会社がたくさんあります。また、内部監査や企業改革法関連の支援業務はビジネスに入り込んでいくので、多くの人と仕事をする機会があります。仕事の魅力やチャンスの幅がさらに広がると思っ。

井上：前の会社は日系の老舗メーカーという体質上、年功序列などの保守的なしなごらみがあって、キャリアアップのチャンスが少なく感じました。また、よりたくさん刺激を与えてくれるマンハッタンで働いてみたいという思いもありました。

■ 2度目ということもあり、初めての就職活動に比べてスムーズに行うことができましたか？

東海林：自分が何を求めているのか、何をすべきなのか明確に見えていたので、気持ちの面では割と余裕を持つことができました。

井上：最初のときはビザの関係もあり、就職先を気が済むまで検討することはできませんでした。でも2度目はそれまでの経験も踏まえて、腰を据えてじっくりリサーチできました。それまで培ってきた人脈のおかげで生の情報を得ることもできました。

■ 転職活動で苦労した点は？

東海林：タイミングを見極めるのが難しかったですね。仕事を抱えながら職を探すわけですから、仕事の引き継ぎ、前職への通知や新しい職場のオファーを受けるタイミング、ビザなどの法的手続きなど、すべて自分でやらなければいけません。

井上：やはり家族への配慮、前職の上司や同僚たちとの別れ、収入面の問題など様々な悩みはありました。

■ KPMGを新しいキャリアの舞台として選んだ理由は？

井上：いくつかの会社と面接をした中で、この人たちとなら一緒に働きたいと思ったのがKPMGでした。

東海林：“人”に魅力を感じたのは同感です。あと自分のナショナルリティーとして、ジャパニーズ・プラクティスが社内においていかに尊重されているかという点も決め手のひとつでした。

■ 現在の仕事について聞かせてください。

東海林：私たちの仕事は、内部監査のアウトソーシングや企業改革法関連の支援業務を通じて、お客様のコーポレートガバナンスやリスク管理の強化をお手伝いすることです。経理の方はもちろん、経営者の方々や多くの部署の方々や接する機会があります。一方、社内にも会計だけでなく様々な知識経験を持った人がいるので、会計以外の分野の知識が増え、何よりも視野が広がります。それがこの仕事の魅力ですね。

井上：メーカーから金融業まで、実に多種多様なお客様を担当するわけですから、好奇心旺盛の自分にとってはいろんな知識が入ってくるのですごく面白いです。トレーニング制度も整っているし、学ぼうと思えばいくらでも学ぶチャンスがある、それがこの会社の魅力ですね。



東海林：もちろん仕事は厳しいですよ。会長から直属の上司まで、上の人はいつもIntegrity (誠実) と品質管理が最も重要だと強調します。自分で努力して専門性を磨かなければ、お客様にも認められません。まさに毎日が修行です。同時に、会社は“Employer of Choice (従業員のための会社)”も最重要目標として、働きやすい職場作りに励んでいます。仕事とプライベートを両立するにはどうメリハリをつけるか、女性が一層働きやすい職場にするには何が必要か、などといったテーマに真剣に取り組んでいます。

■ ここが知りたい! 成功のツボ

東海林：目標を持つこと。自分が何をしたいのか、それに辿り着くにはどのようなステップを踏むべきか、具体的な計画を立てることが大切です。一步一步地道にこなしていくこと、それが成功へのいちばんの近道です。

井上：ただオファーが出たからといってその会社だけに捕らわれず、いろいろな点から考慮すること。転職を考えている人は、すでに選択肢は広がっているわけですから、車を運転するのと同じで、前だけをなく左右後ろを見て、自分がどんな状況に置かれているか、そしてこれから横に座る人はどんな人なのか、広い視野を持ってベストな判断をしてください。

井上：評価制度もしっかりしています。今後のキャリアパスをふまえて、上司と各年度の目標を立てます。個々の業績を自己申告し、上司の査定を受け、よかった点や改善すべき点を話し合います。結果を出せば、“Encore Award”という賞が出ます。頑張った分の見返りがあるのでやる気が出ますね。

■ 井上さんの場合、全く異なる業界への転職に不安もあったのでは？

井上：たしかに前職のバックグラウンドを強みとして生かせるかどうか不安でした。けれども入社当時、最初に任されたお客様がアメリカの大手半導体商社で、前職の経理では半導体部門にいたためそのときに培った経験が役に立ちました。得意分野を極めたい、専門分野に進みたいという希望があれば、会社側は本人の希望を尊重し、積極的にその方面の仕事を任せてくれます。

■ 海外で働く魅力とは？

井上：日本に比べて、変なしがらみが少ないことでしょうか。また、職場には多種多様な国の人がいて、彼らの価値観は仕事以外の面でも大変勉強になります。

東海林：やはり国際的な仕事ができるチャンスが多いですし、それによって視野もだいぶ広がりますね。

井上：海外にいても、日本人のお客様を相手にするときは、日本人だからこそ役に立てることがあります。お客様がなかなか言葉にしばらくいことでも、そこであまくフツと入って聞いてあげる、そういうきめ細やかな対応は日本人だからこそできることだと思います。

■ ビジネス・アドバイザーとして新たなスタートを切ったふたり。ずばり今後のキャリアプランは？

東海林：まずは自分の専門性を伸ばし、いずれはグローバルな舞台で国際的なプロジェクトに携わっていきたいです。夢はとても大きいです。

井上：まずは3年、たくさん修行を積んでもっと専門的な知識を増やしていきたいです。今後アメリカの企業改革法が日本の制度にも大きな影響をもたらすと思うので、その方面でのプロフェッショナルになれるよう、さらに自分を磨いていきたいです。

■ ここが知りたい! 業界の魅力

井上：大企業の内部を見て分析するのが私たちの仕事です。それぞれのスペシャリストと一緒にチームワークで仕事をして、お客様が気づいていなかったポイントを指摘して感謝されたりすると、本当にこの仕事についてよかったと感じます。

東海林：Learning Opportunityが非常に多いところが最大の魅力ですね。また、ひとつの会社で働いていたら、その会社の視点からしか物事を見ることができないのがふつうだと思います。けれども私たちは多種多様なお客様とお仕事をさせて頂いているので、視野も広がりますし、実にバラエティーに富んだ仕事に携わることができます。自分の努力で自分のスペシャリティーを磨けば、必ず道は開けると思います。